

(別添3)

【神栖市】

校務DX計画

【現状】

神栖市では、平成31年度から校務支援システムを導入するなど、校務DXを推進するための環境整備を進めてきた。今後、ICTを用いた更なる効率化・円滑化を進めるため、次のとおり課題を整理し、それに対する取組方針を定める。

【課題】

(1) FAXでのやり取り・押印の見直し

業者、教育委員会などとFAXでのやり取りが慣行として行われている状況のため、デジタル化が進まず効率的な校務ができていない。

また、押印が必要な書類があり、校務のペーパーレス化が滞る原因となっている。

(2) 研修会などのオンライン化

一部、オンライン化している研修会などはあるが、対面のみで実施されている場合が多いため、場所や時間が限定的で教職員の負担となることがある。

(3) 職員室に限定された校務処理の柔軟化

校務処理全般に使われている校務支援システムは、校務用有線LANが配線されている職員室のみでの利用に限定されているため、校内各所で柔軟に校務を処理する環境が構築されていない。

(4) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

新入学児童生徒の名簿を校務支援システムに登録する際に、紙のデータやデジタルデータを参照し、手入力している学校が複数あり、教職員の負担となっている。

【取組方針】

現状と課題から神栖市では、次の通り校務DXの推進を図っていく。

(1) FAXでのやり取り・押印の見直し

FAXは原則使用しない方針を改めて学校に周知する。また、業者や各機関などにFAXを使用せず、電子メールを使ったやりとりなどで対応できないかを継続的に働きかける。

押印の見直しについては、学校で押印している書類を整理し、各規則等に基づき押印が必要とされている書類については、押印廃止を検討する。また、押印省略できる文書で、慣習的に押印しているものについて、押印省略可能であることを周知する。さらに、学校から各所に提出される慣習的に押印が求められる文書は、押印の廃止を働きかける。

(2) 研修会などのオンライン化

現在、対面で行われている研修会などについて、オンライン化や、対面とオンラインのハイブリット化を進める。オンライン化やハイブリット化することで、出張時等場所を選ばずに参加することが可能になる。また、アーカイブ配信を取り入れ、場所や時間が限定されず、教員の負担にならない会議が開催されるように働きかける。今後、各主催者等と協議を進め、研修会や会議のオンライン化、ハイブリット化を推進していく。

(3) 職員室に限定された校務処理の柔軟化

現在、校務支援システムは市役所にサーバーを設置して運用しており、職員室に配線された校務系ネットワークに接続された校務用パソコンでのみ利用が可能になっている。また、教室などに整備されている学習系ネットワークは、児童生徒が学習で利用するためのもので、機微な情報を取り扱う校務系ネットワークとは分離されている。

今後の整備方針として、校務系及び学習系ネットワークを統合、校務支援システムのクラウド化の検討を進め、作業場所が限定されない校務処理環境の構築を目指す。また、機微な情報をインターネット上で処理する環境構築のため、多要素認証の導入などを検討し、セキュリティ対策を十分講じた環境整備方法の調査研究を進める。

(4) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

新入児童生徒名簿は、教育委員会から学校にデジタルデータを配布し、各学校で校務支援システムに登録しているが、学校によって登録の仕方が違っており、余計な業務が発生している学校があるため、効率的な処理方法を周知し、不必要な手入力作業を一掃する。